

岐阜大学工業短期大学部

正会員 三木秀雄

岐阜大学工学部

正会員 河村三部

合流点における横流入の運動方程式は、一般に、次式で与えられる：

$$\frac{dy}{dx} = \frac{S_0 - S_f - \frac{2\beta Q q_*}{gA^2} + \frac{q_*}{gA} V_2 \cos \theta}{1 - \frac{\beta Q^2}{gA^3} \frac{dA}{dy}} \quad \text{--- (1)}$$

ここに、 y = 水深、 A = 流積、 Q = 合流部の流量、 g = 重力の加速度、 S_0 = 水路床勾配、 S_f = エネルギー勾配、 β = 運動量補正係数、 q_* = 単位長さ当りの流入量 ($q_* = Q_2/L$)、 V_2 = 流入平均流速、 θ = 流入角度 (合流角度) である。合流点の水面形を求めるために、

i) $S_0 = S_f = 0$; ii) 水路断面は長方形、固定床とする; iii) 水路①と水路③は、直線上にある; iv) 本川水路の幅 (B) は、同一である。 ($B_1 = B_2 \neq B_3$); $A = By$, $dA/dy = B$, $V_2 = Q_2/B_2 y_2$ であり、

流束の連続式より $Q = Q_1 + q_* x$ --- (2)。式(1)は、境界条件 $x = L$ のとき $y = y_3$, $x = 0$ のとき $y = y_1$ を用い、さらに、 $B/B_2 = \eta$ とおいて解き、次の三次方程式が得られる。

$$\left(\frac{y_1}{y_3}\right)^3 - (1 + 2\beta F_{r3}^2) \left(\frac{y_1}{y_3}\right) + 2F_{r3} \left\{ \beta \left(1 - \frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 + \eta \cos \theta \left(\frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 \right\} = 0 \quad \text{--- (3)}$$

図-1 定義図

ここに、 F_{r3} はフロード数である。断面 I - I、II - II、断面 III - III について、運動量の関係式を適用すると、

$$\frac{1}{2} \lambda_1 \rho g B_1 y_1^3 + \rho \beta_1 B_1 y_1 V_1^2 + \frac{1}{2} \lambda_2 \rho g B_2 y_2^3 \cos \theta + \rho \beta_2 B_2 y_2 V_2^2 \cos \theta + W S_0 = R + F_3 + \frac{1}{2} \lambda_3 \rho g B_3 y_3^3 + \rho \beta_3 B_3 y_3 V_3^2 \quad \text{--- (4)}$$

連続式より、 $B_1 y_1 V_1 + B_2 y_2 V_2 = B_3 y_3 V_3$ --- (5) ここに、 λ = 圧力分布係数、 R = 支川水路についての側壁から本川水路方向への反力成分、 W = 断面 I - I、II - II、断面 III - III 間の流体の重量、 F_3 = 境界面に働く表面摩擦抵抗。式(4)、(5)より $B_1 = B_3$, $B_2 = \frac{1}{2} B_1 = \frac{1}{2} B_3$, $\lambda_1 = \lambda_2 = \lambda_3 = 1$, $\beta_1 = \beta_2 = \beta_3 = \beta$, $R = \frac{1}{2} \rho g B_2 y_2^3 \cos \theta$ を代入し、 $y_1 = y_2$ とすると式(6)が得られる。

$$\left(\frac{y_1}{y_3}\right)^3 - (1 + 2\beta F_{r3}^2) \left(\frac{y_1}{y_3}\right) + 2\beta F_{r3} \left\{ \left(1 - \frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 + \eta \cos \theta \left(\frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 \right\} = 0 \quad \text{--- (6)}$$

また、式(4)に N.B. Webber と C.A. Greated の補正式 $R = \frac{W B y_2^3 \cos \theta}{2} - K \left(\frac{W B y_2^3}{2} - \frac{W B y_3^3}{2} \right)$ を代入すると、式(7)を得る。

$$\left\{ \left(1 + K\right) + \left(1 - \frac{1}{\eta}\right) \right\} \left(\frac{y_1}{y_3}\right)^3 - (1 + K + 2\beta F_{r3}^2) \left(\frac{y_1}{y_3}\right) + 2\beta F_{r3} \left\{ \left(1 - \frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 + \eta \cos \theta \left(\frac{Q_2}{Q_3}\right)^2 \right\} = 0 \quad \text{--- (7)}$$

ここに、 K は、C.A. Greated の式 $K = 0.3 \left(\sin \theta + \frac{Q_2}{Q_3} - 1 \right)$ である。

したがって、式(3)と式(6)とは、同一形式の三次方程式となる。

パラメータとして合流比 Q_2/Q_3 をとり、 $\eta = 1.0$; $\theta = 30^\circ, 60^\circ, 90^\circ$ について y_1/y_3 と F_{r3} の関係を示すと図-2, 3, 4 のようである。また、 K を用いた場合には、図-5, 6 のようになる。図中の実験点は、 $B_1 = B_2 = B_3 = 25\text{cm}$ の合流水路の実験結果である²⁾。 $\eta = 2.0$, $\eta = 3.0$ の場合を $\theta = 60^\circ$ について示すと、図-7, 8, 9, 10 のようである。また F_{r3} をパラメータにとり、 y_1/y_3 と Q_2/Q_3 との関係を示すと、 $\theta = 60^\circ$ について示すと、図-11 のようである。 β の値については、実験結果より $\beta = 1.1$ とした。

参考文献

1) 河村三部, 三木秀雄: “河川合流部における水理学的研究,” 土木学会中部支部講演概集, 1976, PP.43-46.

2) 小沢功一: “河川合流点における水理学的研究,” 岐阜大学工学部修士論文, 1969.

